

議会だより

12月定例会一般質問（要約）



谷 竹 議員

質問 観光PRについて

来年度の観光シーズンに向け、島根の魅力をアピールする「しまね・旅の縁」が開催され、溝口善兵衛知事は、俳優の玉木宏さんが祖父の故郷の西ノ島町をたびたび訪れているとし「ご縁フルエンサー」として観光PRに協力してもらっている」と紹介した。

西ノ島町として協力していただく要請は行わないのか尋ねる。

回答 町長

様々な制約があるが、今後の可能性について探っていく

玉木宏さんは、西ノ島に縁があり、全国的な知名度も高く、アピールする方策として効果が見込めることは、十分認識している。

「ご縁フルエンサー」の就任あいさつの

中で、西ノ島について「祖父が住んでいるので、思い出の地です。雄大な自然が目の前に広がっているの、ここはぜひおススメしたいです。」とのコメントがあったと伺っている。

また、「ご縁の国しまね」のプロモーション動画の中でも、国賀海岸を訪れたシーンが紹介されていることや、ポスターの1つにも絶景「国賀海岸」が使われている。

この事業は、島根県が企画・契約したものだが、西ノ島が随所にPRされており、大変嬉しく思っている。

今回の西ノ島町独自で協力いただくことについては、大物俳優ゆえに契約時に相応な予算を要することや本人と直接交渉できないこと等の様々な制約があるが、PR効果も多いに期待できることから、今後の可能性について探っていく。



小島 正 議員

質問1 町イベントの在り方について

質問① イベントの再考について

西ノ島町では町や実行委員会主催のイベントが沢山あるが、企画・運営する職員は時間外や休日出勤と負担も多く、有給休暇の取得率も少ない。職員の負担も考慮しつつ、イベントの効果を検証し、廃止縮小及び充実策等再考を図ってはどうか。

回答① 町長

職員の負担軽減からの事業廃止・縮小は考えていない

イベントについては、より効果的な実施方法を検討していく

イベントと職員の負担に関する見解だが、確かにイベントの企画・実施に向けた職員の負担はあるが、より影響が大きいのは、業務量が増えている中、事業実施に付随する計画策定・効果検証を求められるなど、仕事のスタイルが複雑になっていることや職員の若返りに伴うスキル不足から

ら生じていることなどが要因と思われる。

産業振興、定住、情報発信、福祉など地域課題に危機意識をもって取り組んでいくには、今までにない新しい取り組みが必要で、職員の負担も当然ながら生じてくるが、イベントに関わらず職員の負担軽減を図る観点から事業を廃止縮小するといったことは考えていない。職員には心身の健康、ワークライフバランスの調和を図りながら、スピード感を持って業務に取り組んでいくことを期待している。

イベントの再考については、それぞれの行事・イベントにねらいや歴史、思いがあるし、他団体との調整も必要になってくる。職員の負担軽減を図る観点からではないが、意見を参考により効果的な実施方法を検討していく。

質問② 住民参加型のイベント実施について

西ノ島町では町民に見てもらいイベントがすべてであり、住民参加型のイベントがない。余芸大会や運動会等、住民参加型のイベントを実施する考えは。

回答② 町長

住民の多くが参加するイベントは、機運の盛り上がりが必要な要素なので、その時々状況を見ながら検討したい

住民参加型のイベント実施については、

産業文化祭での個人や団体での作品展示、健康ウォーキングやハーブマラソンなどには参加者やボランティアとして、その他のイベントにおいても出店などの形で、住民の皆さんに参加頂いているものと認識しており、すべてが町民に見てもらうイベントとは考えていない。

以前も町民体育大会に関して質問を頂き、同様の回答となるが、地域の交流促進や活性化を促すのに、町民の皆さんが集う機会を設けることは、重要なことではあるが、各地区の区長さんをはじめ、地域の皆さんの協力が不可欠な行事には、「機運の盛り上がり」ということが、非常に大事な要素なので、その時々状況を見ながら検討したい。

質問② 子育て環境対策について

質問① 東部地区に子供広場を造ることについて

子供の遊び場として、浦郷地区に浦の谷子供広場があり、美田地区には運動公園の遊び場があるが、東部地区には無い。旧黒木小学校跡地の校庭の一角に子供の遊ぶ施設と、併せて高齢者の健康寿命を促進する施設を一緒に造ってはどうか。

回答① 町長

今後、町内の学校跡地利用計画を検討する際の参考にする

現在旧黒木小学校は、民間事業所に校舎の一部と校庭を貸与しており、また、今年度中に、体育館横に体験施設（コンテナハウス）を2戸建築することとしている。

指摘の「子ども広場」「高齢者の健康寿命を促進する施設」については、旧浦郷小学校を含め、将来的に学校跡地をどうするか、今後具体的利用計画について検討する際の参考にしていくつもりである。

質問② 美田コミュニティセンターの遊具設置について

美田コミュニティセンターでは子育てサロンを開催しており、同施設の有効利用の観点からも安全を配慮したうえで、子供の遊具を設置してはどうか。

回答② 町長

遊具の設置希望の有無等を含め、子育てサロン利用保護者等の意見を参考に検討していく

この美田コミュニティセンターの芝部分の遊具設置については、今後、改めて、遊具の設置希望の有無や希望する遊具等、子育てサロン利用の保護者などの意見を伺いながら、安全で活用しやすい遊具の設置について検討していく。



保 員
東 議

質問 につぼんA級（永久）グルメのまち連合について

11月中旬に、5つの自治体の連合で、「食を中心に首都圏に情報を提供する」という考えのもと、「につぼんA級（永久）グルメのまち連合」を発足させたばかりだが、以下の4点について伺う。

質問① 「どのような食」を「どのような方法」で販売するのか

「食をツールに情報発信する」という考えだが、具体的に「どのような食」を「どのような方法」で販売する考えか。その際、インターネットを利用した販売も考えているのか。

回答① 町長

「隠岐のいわがき」「伝説のイカ」をメインに、地元で食べてもらえる体制作りに取り組む

本町は、同連合の中でも唯一の離島であり、「A級グルメの島」として、まずは「隠岐のいわがき」発祥の地、「伝説のイカ」を売りに、西ノ島に来て食べてもらえる体制作りに取り組むものである。今のところ

インターネット販売は考えていない。

質問② 西ノ島町に、どのような効果が期待できるのか

回答② 町長

「食でも魅力のある西ノ島」にして、観光客入込客数増加による経済効果を期待する

「A級グルメの島」と言えるメニュー開発を行い、ブランドイメージの定着や拠点となる宿泊施設等で食を堪能してもらい、「食にも魅力がある」西ノ島の観光をPRすることで、観光入込客数の増加による経済効果を期待している。

質問③ 連合している他の自治体との差別化を図るのかどうか

回答③ 町長

差別化よりも、自治体連合で地方を売り込むことがメインとなる

本町は隠岐のいわがきと伝説のイカ、おの邑南町は石見ポークと有機野菜、北海道おの鹿部町は甘口タラコと昆布、福井県小浜市は蓄養サバ、宮崎県都農町は宮崎牛と都農ワインでスタートする。

差別化を意識するよりも、本来の目的である自治体の相互協力による「ノウハウの共有」や「情報発信力の強化」で、地方を売り込むチャンスと捉え、また、今後